

2018年2月24日

## 血液検査で、アルツハイマー病変の検出法を確立

〈精度は髄液検査(CSF)やPETイメージング検査に匹敵〉

島津製作所は国立長寿医療研究センターとともに、血液検査による高精度のアルツハイマー病変検出法を確立した。アルツハイマー病の根本的な治療薬や予防薬の開発を加速すると期待される。

島津製作所は、国立長寿医療研究センターとともに、血液検査による高精度のアルツハイマー病変(アミロイド蓄積)検出法を確立したと発表した。これは、現在用いられている脳脊髄液(CSF)やPETイメージング検査に匹敵する高い精度を持つ。

同社と国立長寿医療研究センターは、2014年に質量分析システムを用いたアルツハイマー病血液バイオマーカーを発見。これについて、オーストラリアのThe Australian Imaging, Biomarker & Lifestyle Flagship Study of Ageing(AIBL)と連携し、京都大学、東京大学、東京都健康長寿医療センター、近畿大学と共同で、さらに研究開発を進めてきた。AIBLは世界有数のアルツハイマー病コホート研究の組織だ。

現在用いられている脳脊髄液(CSF)検査は侵襲性があり、PET検査は高額なため、数千人規模の参加を必要とする臨床試験への適用には限界があった。それに対し、同研究が確立した手法ではわずか0.5ccの血液、かつ低コストで、アルツハイマー病変を早期に正確に検出することが可能になった。

以上